会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和2年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」  （２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果②教職員研修プログラムの構築 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第5回ICT活用研修WG |
| 開催日時 | 令和3年2月18日（木）　10時00分～12時00分 |
| 場所 | オンライン会議 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡　信吾  委　　　員：猪俣　昇、岡村　慎一、岩切　直子、岩﨑　千鶴、  長瀬　あゆみ、　　　　　　　　　　　　　　　　計 6名  請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　 計 1名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 合計 7名 |
| 議題等 | 1. 調査報告書の説明   ・調査概要から始まり、アンケート調査、ヒアリング調査の順で報告書をまとめた。アンケート調査、ヒアリング調査はそれぞれ目的・実施概要・調査結果・まとめの項目でまとめている。  ・各委員内容確認（誤字脱字中心）2月19日昼までに連絡する。（猪俣）  ・了解（委員全員）   1. デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニング教授法案   ・「デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニング教授法の確立と、その方法を習得する研修プログラム開発」の観点から、研修に求められる構成要素を以下のように分類した。  　　【構成要素】  ・4.1 マインドセット  ・4.2 事前のアセスメント  ・4.3 授業設計  ・4.4 eラーニングコンテンツ制作  ・4.5 学生・生徒へのアプローチ  ・4.6 ICTを活用した具体的な授業手法  ・4.7 評価基準と学習過程・成果の可視化  ・4.8 ICTの基礎リテラシー  ・また、研修内容案は大きく①②③で分類したが、このような構成を考え  ている。  ★授業準備  ①オンラインでの授業デザイン設計のトレーニング  ティーチングコンテンツの制作は研修内容とはしないで持参前提（自作、  外部調達不問）  ★授業内外（授業中～外にかけて伴走）  ②学生⇔先生のコミュニケーションや学生個人の自己調整学習力を伸ば  すことが狙い。  Google classroom、スプレッドシートの活用  ファシリテーション、コーチング、フィードバックの理論と実践  事例ベースのケーススタディ  ③学生⇔学生、学生⇔先生のピアラーニング  ピアによる学習のアダプティブ化が狙い  同期型の場合はZoom、非同期型の場合はSlack  ファシリテーション、コーチング、フィードバックの理論と実践  事例ベースのケーススタディ  　　・次年度の流れとしては、研修プログラム開発⇒研修受講・ケース⇒実地  で検証⇒リフレクション研修で考えている。  　　【意見等】  ・授業の準備、授業内外の研修で分けられているととても勉強になると感  じた。（長瀬）  ・オンライン授業の組み立て方に苦戦している教員も多い。この内容なら授業の組み立て方が分かりやすいと感じる。（岩﨑）  ・学生と教員に合わせた「ピアによる学習のアダプティブ」が難しいと感じているので、ニーズが高いと感じる。（岩切）  ・オンライン授業に特化していることは意味があるが対面でのアダプテ  ィブラーニングの研修も検討できればと感じる。（高岡）  　→授業デザインのみだと開発済みのものがあるのでは？ということと  今年度の調査では「オンラインとの掛け算」に苦労されている方が多  かったこと、事前の打ち合わせである程度の集約が必要との意見もあったので、現時点ではオンライン授業を主にしている。（猪股）  　　　→現状ではコロナ禍ということもありオンラインが注目されているが、  元々の目的を考えると今後検討の必要があると感じる。マインド的に  支えながら学生を支えていくことを考慮すると専門学校としては対  面が重要になる。（高岡）  　　　→対面での研修を今後検討していく。（猪俣）  ・デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニングの教授法を考えたときに、この研修を受けた教員の方が何を得たのかというコンセプトを明快にしたほうが良い。アダプティブラーニングをどう定義してい  るのかということを伝え、その中のこの部分という研修のやり方が必  要。学習領域としては学習評価WGで態度領域、ICT活用研修WGでは技能領域を考えている。アダプティブラーニングやデジタルコンテンツの活用を焦点化し、その上での効果的な組み合わせ、学生の多様化への対応方法などパートを分けて構成すると良いと考えている。（岡村）  ・デジタルコンテンツの活用についてのヒアリングでアダプティブラーニングに対する先生方のいろいろな関わり方を研修に組み込んで欲しい。また、ICTの基礎リテラシーがなくてできない教員もいるということが分かったが、ツールの使用方法は研修に組み込むのではなく、ポータルサイトで提供ができると良い。学び方を自ら体験してアダプティブラーニングを学んでいけると良い。（岡村）  　→研修時に紹介されて「後で見よう」と思っても時間がなくなかなか見  る事ができない。ポータルサイトがあっても活用できるかは教員次第  になるのではないかと感じる。（長瀬）  　　　→情報が有りすぎるとどれを選べばいいか分からないときもある。結局  詳しい人に聞くことが多い。（岩﨑）  →学び方を自ら体験してアダプティブラーニングを学んでいけると良  い。（岡村）  →新たな時代の中で何かをやりたいと思った時、自ら学びとっていくと  いう意識が必要なのではないかと感じる。4.1のマインドセットが重  要で、アダプティブラーニングが従来の教育の考え方や方法と比較し  て異なっていること、高い成果をあげていることを教員や関係者が理  解・納得することが求められる。教員の在り方が変わっていることへ  の気付きの時間があると良い。（高岡）  　→全専研で次年度より文科省委託事業を普及継続するための委員会が  発足する。そこでICT活用研修をオンライン研修も含め実施すれば  デジタル化の実証もできる。そのような活動を継続することで理解の  ある人たちを増やし次の活動に繋げていくことができればと考えて  いる。（岡村）  →研修対象者、目的はどう設定するか。（猪俣）  →ICT、アダプティブラーニングを活用すると経験関係無く学生への指  導ができることが良いと思うので、対象は全般的な教員で良いかと感  じる。（長瀬）  →ICTの得意不得意があるので、不得意な人でも分かりやすい内容が良  い。（岩﨑）  →長瀬先生と同意見。（岩切）  →アダプティブラーニングの意味をいかに理解してもらうか。今までの問題点をどう改善していくか。コロナ禍でオンライン授業を導入することでベテラン教員より若手教員ができることが出てきた。そのような新しい変化を改めて認識してもらうことも大切だと感じる。（高岡）  ・来年度は「テクニカルな部分の教員への教授・伝達方法」、「どのよう  な公開されているICT活用のための勉強ツールを使用しているか」に  ついて調査をすると良いと考えている。（岡村）  ・教育の進行、学生の習熟度の管理にどのようにICTを活用していくか。  データベースのつくり方なども必要。（飯塚）  →今日のご意見を元に、アダプティブラーニングの意義、技能へのICT技術の活用を主体に再度研修内容を検討していく。デジタルコンテンツに関しては課題を総括とし次に繋げていく。（猪俣）   1. 意見・感想   ・初めての参加だったが大変勉強になった。（長瀬）  ・皆さんの意見など勉強する事ばかりだった。（岩﨑）  ・ヒアリング調査でいろいろな学校の取り組み、また気付かされる点が多  く勉強になった。（岩切）  　　・まだ1年目ではあるがこの先を考えると非常に大切な1年だった。コロ  ナ禍でも充実した報告書ができた。報告書を元に次年度以降も充実した  内容にしたい。（高岡）  　　・実りある内容だった。コロナ禍だからこそ注目されるテーマだと思うの  で、これからの成果が今後評価していただけるような実績を作っていき  たいと思う。（岡村）  　　・報告書が完成して安堵感が一番。インタビューで改めての気付きもあっ  た。まだこの分野は未完成な状況なので専門学校業界として先駆けて完  成させていきたい。  　　・今後国の方向性としてICTを活用した教育がどんどん進んでいく。当会  の情報なども共有しながら今後も進めていきたい。（飯塚）  　　・報告書を元に次年度もより良い方向に進めていきたい。（猪俣） |
| 配布資料 | ・調査報告書\_20210216  ・デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニング教授法案 |

以上